



**静岡社会健康医学大学院大学**  
**博士後期課程 シラバス**  
**2026 年度**

2026年度 博士後期課程科目一覧 (シラバス目次)

科目区分	授業科目の名称	科目区分	単位数	配当年次	開講時期	曜日	時限	教室	シラバスページ
基礎科目	社会健康医学特講	必修	1	1年	通年	土	4	講義室1	1
特別演習科目	博士課程セミナー1	必修	1	1年	通年	土	5	講義室1	2
	博士課程セミナー2	必修	1	2年	通年	土	5	講義室1	3
	博士課程セミナー3	選択	1	3年	通年	土	5	講義室1	4
特別研究科目	社会健康医学研究	必修	12	1~3年	通年				5

科目名	社会健康医学特講		学 期	通年		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 4 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、木下和生、栗山長門、小島原典子、高木明、高山智子、竹内正人、田原康玄、古川茂人、堀内泰江、森 潔、山崎浩司、山本精一郎、田中仁啓、八田太一、藤本修平、溝田友里、森 寛子、吉岡貴史、佐々木八十子、佐藤洋子、佐藤清香、新屋裕太、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	<p>社会健康医学の最先端で研究を牽引している研究者や専門家を招き、研究の内容や成果、社会実装に対する取り組みなどについて実践的に学ぶ。国内だけでなく国際的に活躍している研究者を招くことで、世界に広く目を向け、諸外国に現存する健康課題についても見渡せる幅広い視野を養う。社会健康医学は極めて幅広い領域に跨がる学問であり、かつ医学・保健学などの近接領域に限定されない学際的な学識も必要とされることから、様々な研究領域の研究者を招く。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(臼井 健、木下和生、栗山長門、小島原典子、高木明、高山智子、竹内正人、田原康玄、古川茂人、堀内泰江、森 潔、山崎浩司、山本精一郎、田中仁啓、八田太一、藤本修平、溝田友里、森 寛子、吉岡貴史、佐々木八十子、佐藤洋子、佐藤清香、新屋裕太、Fehérvári Tamás Dávid／1 回)(全 8 回一部共同)</p> <p>担当教員は、いずれかの回を輪番制で担当し、本人担当回のテーマに適した外部講師を選定・招へいするとともに、授業ではファシリテーターとして討論を先導し、また意見集約を図る。</p>					
到達目標	社会健康医学ならびに関連する研究領域において、どのような研究が行われているか理解する。個々の研究の目的、得られた成果の意義、社会実装の方法や効果について理解する。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	保健医療情報	レセプトなどの医療ビッグデータの解析研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	臼井 健 木下和生 栗山長門
	2	がん疫学	がんの疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	小島原典子 高木明 高山智子
	3	臨床疫学	臨床現場における問題点に関する研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	竹内正人 田原康玄 古川茂人 堀内泰江
	4	加齢性疾患予防	高齢者を対象とした疫学研究や予防研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	森 潔 山崎浩司 山本精一郎
	5	社会疫学	社会疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	田中仁啓 八田太一 藤本修平
	6	栄養疫学	栄養疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	溝田友里 森 寛子 吉岡貴史
	7	遺伝疫学	多因子疾患、がん、難治性疾患の遺伝疫学研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	佐々木八十子 佐藤洋子 佐藤清香 新屋裕太
	8	言語・認知と脳科学	認知脳科学の観点から、聴覚・言語・認知やその発達に関する研究を先導する研究者や専門家をゲストスピーカーとして招聘し、当該領域研究の最先端を学ぶ。	△	△	Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	講義中の討論への参加度(討論への参加の積極性・質問の適切性)(30%)・期末レポート(70%) ＜成績評価の前提条件＞必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	必要に応じて資料を配付する。					
参考書	なし					
授業時間外に行う 学修内容	予習：予め配付される講義資料を熟読すること。 復習：講義内容に関連した資料や論文を読み、理解を深めること。					
備考	原則、オンサイトで参加すること。 原則、2回までは事前報告があった場合に限り、オンデマンドによる受講を認める。					

科目名	博士課程セミナー1		学期	通年		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単位数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	1 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	—		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、木下和生、栗山長門、小島原典子、高木明、高山智子、竹内正人、田原康玄、古川茂人、堀内泰江、森 潔、山崎浩司、山本精一郎、田中仁啓、八田太一、藤本修平、溝田友里、森 寛子、吉岡貴史、佐々木八十子、佐藤洋子、佐藤清香、新屋裕太、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー1を履修する1年次は、主に上級生の発表や、教員、外部講師による講評を聞くことで研究の実施に関して基礎的な知識を身につけるとともに、質疑や討論に加わることで研究を客観的に吟味する力を身につける。					
到達目標	先行研究や他の院生の研究を客観的に吟味し、研究の内容について討論することができる。					
授業展開	回	テーマ	内容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	臼井 健 木下和生 栗山長門
	2	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	小島原典子 高木明 高山智子
	3	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	竹内正人 田原康玄 古川茂人
	4	研究成果の経過報告	他の院生の研究報告を聞いた上でその内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	堀内泰江 森 潔 山崎浩司
	5	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	山本精一郎 田中仁啓 八田太一
	6	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	藤本修平 溝田友里 森 寛子
	7	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	吉岡貴史 佐々木八十子 佐藤洋子
	8	研究成果の経過報告	他の院生の研究報告を聞いた上でその内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論に加わる。	△	△	佐藤清香 新屋裕太 Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	討論への参加度(基礎的知識の理解度・討論への参加の積極性・質問の適格性)(100%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	必要に応じて適切な資料を提示する。					
参考書	なし					
授業時間外に行う 学修内容	復習:セミナーで扱った論文や研究に関する関連資料を読み、当該研究の世界的な動向や類似研究に対する優位性等について理解を深める。					
備考	原則、オンサイトで参加すること。 原則、2回までは事前報告があった場合に限り、オンデマンドによる受講を認める。					

科目名	博士課程セミナー2		学 期	通年		
履修区分	必修科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	2 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	博士課程セミナー1		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、木下和生、栗山長門、小島原典子、高木明、高山智子、竹内正人、田原康玄、古川茂人、堀内泰江、森 潔、山崎浩司、山本精一郎、田中仁啓、八田太一、藤本修平、溝田友里、森 寛子、吉岡貴史、佐々木八十子、佐藤洋子、佐藤清香、新屋裕太、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。 博士課程セミナー2を履修する2年次からは、論文抄読を積極的に行うことで幅広い知識を身につけるとともに、自身の研究成果の経過報告を行い、様々な分野の教員や外部講師から講評を受けることで、研究の方向性や社会実装に関する知見を深める。また、セミナーでの発表を通じて、プレゼンテーションや質疑応答など研究者に必要な素養を養う。 博士課程セミナー2では、自らセミナーの運営や外部講師の招聘を担うことで、研究者として必要なマネジメント能力も養う。					
到達目標	先行研究や他の院生の研究を客観的に吟味し、研究の内容について討論することができる。					
授業展開	回	テーマ	内 容	オン ライン	オンデ マンド	担当教員
	1	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	臼井 健 木下和生 栗山長門
	2	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	小島原典子 高木明 高山智子
	3	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	竹内正人 田原康玄 古川茂人
	4	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に答える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	△	△	堀内泰江 森 潔 山崎浩司
	5	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	山本精一郎 田中仁啓 八田太一
	6	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	藤本修平 溝田友里 森 寛子
	7	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	吉岡貴史 佐々木八十子 佐藤洋子
	8	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に答える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	△	△	佐藤清香 新屋裕太 Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	討論への参加度(討論への参加の積極性・プレゼンテーションの完成度・質問の適格性)(40%) 先行研究の理解度と客観的評価力(50%) セミナー運営への貢献(10%) <成績評価の前提条件>必修科目のため、全ての授業回に出席すること。					
テキスト	必要に応じて適切な資料を提示する。					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	復習:セミナーで扱った論文や研究に関する関連資料を読み、当該研究の世界的な動向や類似研究に対する優位性等について理解を深める。					
備考	原則、オンサイトで参加すること。 原則、2回までは事前報告があった場合に限り、オンデマンドによる受講を認める。					

科目名	博士課程セミナー3		学 期	通年		
履修区分	選択科目		曜日・時限	土曜 5 限		
単 位 数	1 単位 (90 分 × 8 コマ)		使用教室	講義室 1		
配当年次 (履修推奨年次)	3 年次		本科目の履修に当たり 単位修得必須の科目	博士課程セミナー1、博士課程セミナー2		
科目責任者	臼井 健		本科目の履修に当たり 単位修得が望ましい科目	—		
担当教員	臼井 健、木下和生、栗山長門、小島原典子、高木明、高山智子、竹内正人、田原康玄、古川茂人、堀内泰江、森 潔、山崎浩司、山本精一郎、田中仁啓、八田太一、藤本修平、溝田友里、森 寛子、吉岡貴史、佐々木八十子、佐藤洋子、佐藤清香、新屋裕太、Fehérvári Tamás Dávid					
科目概要	<p>博士課程セミナーは全学年合同で開催し、論文抄読、研究成果の経過報告と討議、特別講演などを行う。</p> <p>博士課程セミナー3 を履修する 3 年次は、2 年次と同様に論文抄読を積極的に行うことで幅広い知識を身につけるとともに、自身の研究成果の経過報告を行い、様々な分野の教員や外部講師から講評を受けることで、研究の方向性や社会実装に関する知見を深める。また、セミナーでの発表を通じて、プレゼンテーションや質疑応答など研究者に必要な素養を養う。ただし、2 年次よりも高いレベルの論文を選択し、また複数の論文を系統的にレビューするなど、一段高いレベルで抄読や討議を行う。</p> <p>博士課程セミナー3 では、自ら論文抄読や研究成果の経過報告を行うだけでなく、低学年生の研究支援も担うことで、研究者としてのリーダーシップを養う。2 年次から継続してセミナーの運営や外部講師の招聘を担い、研究者として必要なマネジメント能力をさらに高める。</p>					
到達目標	<p>先行研究や他の院生の研究を客観的に吟味し、研究の内容について討論することができる。</p> <p>論文抄読や研究成果の経過報告において、研究の内容を端的に説明でき、質疑に適切に応えられる。外部講師の招聘を含め、セミナーを運営することができる。</p> <p>低学年生の研究(論文抄読や研究発表)を支援することができる。</p>					
授業展開	回	テーマ	内容	オンライン	オンデマンド	担当教員
	1	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	臼井 健 木下和生 栗山長門
	2	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	小島原典子 高木明 高山智子
	3	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	竹内正人 田原康玄 古川茂人
	4	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に応える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	△	△	堀内泰江 森 潔 山崎浩司
	5	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	山本精一郎 田中仁啓 八田太一
	6	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	藤本修平 溝田友里 森 寛子
	7	論文抄読	研究論文を読んで内容を吟味するとともに、研究課題の意義、研究方法の妥当性の検証、研究結果の吟味等についての討論する。	△	△	吉岡貴史 佐々木八十子 佐藤洋子
	8	研究成果の経過報告	研究成果を発表し、質疑に応える。 他の院生の研究について内容を吟味するとともに、研究内容等について討論する。	△	△	佐藤清香 新屋裕太 Fehérvári Tamás Dávid
評価方法	<p>討論への参加度(討論への参加の積極性・プレゼンテーションの完成度・質問の適格性)(40%)</p> <p>先研究の理解度と客観的評価力(50%)</p> <p>低学年生の研究発表や論文抄読の支援(10%)</p> <p>&lt;成績評価の前提条件&gt;選択科目のため、2/3 以上の出席(全 8 コマ中 6 コマ以上)を条件とする。</p>					
テキスト	必要に応じて適切な資料を提示する。					
参考書	なし					
授業時間外に行う学修内容	復習: セミナーで扱った論文や研究に関する関連資料を読み、当該研究の世界的な動向や類似研究に対する優位性等について理解を深める。					
備考	<p>原則、オンサイトで参加すること。</p> <p>原則、2回までは事前報告があった場合に限り、オンデマンドによる受講を認める。</p>					

科目名	社会健康医学研究		
履修区分	必修		
単位数	12 単位	開講時期	1 年次～3 年次・通年
科目責任者	博士課程指導教員		
担当教員	博士課程指導教員、博士課程副指導教員		
科目概要	博士論文の作成に向けて、指導教員による指導の下、社会健康医学における具体的な課題を設定し、当該領域の学術的発展に寄与するとともに実践的な課題解決に向けた方策の提案にも貢献する研究を遂行する。また、研究成果の社会実装を見据えた研究も積極的に行う。 社会健康医学研究の実施に必要な倫理承認を得るプロセスを経験することで、研究者としての倫理観を実践的に養う。		
到達目標	単著または筆頭著者として、査読制度のある学術雑誌に掲載されている、または掲載が予定されている論文を1 編以上有する。社会健康医学の学識を身につけ、かつ高い研究遂行能力、研究成果の社会への実装能力、教育研究における指導的・先導的能力も身につけている。研究計画の倫理承認の取得や、対象者からの同意取得のプロセスを通じて、研究者として必要な高い倫理観を身につけている。		
授業展開	<p>【1 年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス、指導教員の決定及び研究指導開始(4 月)</li> <li>2. 研究課題の決定(4～6 月)</li> <li>3. 研究計画の立案(7 月以降)</li> <li>4. 研究成果の中間発表(2 月)</li> <li>5. 単位認定、状況確認(3 月)</li> </ol> <p>1 年次の単位認定及び科目履修状況、研究の進捗状況を確認する。</p> <p>【2 年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の遂行、進行状況確認(4 月以降)</li> <li>2. 研究倫理審査(適時)</li> <li>3. 研究計画に基づいた研究の遂行(4 月以降)</li> <li>4. 研究成果の中間発表(2 月)</li> <li>5. 単位認定、状況確認(3 月)</li> </ol> <p>【3 年次】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 研究の遂行、進行状況確認(4 月以降)</li> <li>2. 博士論文の審査申請(9 月以降)</li> <li>3. 博士論文の提出(9 月以降)</li> <li>4. 博士論文発表会・最終審査(12～2 月)</li> </ol> <p>(臼井 健※)精密医療実現のためのゲノム医療の推進および遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(小島原 典子)ワクチンによる呼吸器感染症の予防効果、産業保健介入が働きがいと与える影響、電磁界など物理因子の健康影響などに関するシステマティックレビューや疫学研究を指導し、論文作成を支援する。</p> <p>(栗山 長門)長寿・認知症・がん・生活習慣病などを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究課題 を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(森 潔)高額な医療費・介護費を必要とする腎疾患及び関連する生活習慣病・心血管疾患・癌などについて、危険因子の同定と積極的健康増進を目標とした研究課題を設定し、研究デザイン及び論文作成のプロセスを指導する。</p> <p>(木下 和生)がんや免疫関連疾患の疫学研究(遺伝子多型との関連も含む)、コホート調査で収集する検体を用いた新規老化生物指標(バイオマーカー)に関する研究課題について、研究プロセスと論文作成を指導する。</p> <p>(竹内 正人)健康保険組合保有データベースや DPC データベースをはじめとする大規模医療データベースを用いた臨床疫学・薬剤疫学に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(高山 智子)がん患者や生活者と医療者とのコミュニケーションに関する研究、パブリックヘルスコミュニケーションの質の改善に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。</p> <p>(山本 精一郎)がんを中心とした様々な疾患領域の治療、予防のための新しい医療技術(医薬品を含む)開発に資する臨床試験の計画、実施、解析について指導する。がんを含む生活習慣病予防や二次予防としての健診・検診分野における行動変容を促す方法の開発・評価・普及について指導する。</p>		

(古川 茂人)難聴の特性・リスク評価への展開を想定した、「聞こえ」の測定やメカニズム解明に関する心理物理学・神経生理学・認知科学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(田原 康玄)生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(山崎 浩司)死別体験者のグリーフに対する健康増進の支援、臨床死生学、インフォーマルケアに関する研究課題について、主に質的研究を用いた論文作成の研究プロセスを指導する。

(堀内 泰江)臨床ゲノム解析による遺伝子型と表現型の関連研究成果をふまえ、ゲノム医療の推進、遺伝カウンセリングの質向上に関わる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(森 寛子※)地域社会で暮らす人々の健康と福祉の向上に関し、疫学手法や質的研究法(構成主義的 GTA,内容分析、テーマ分析など)、及び文献研究やフィールド調査などを用いた研究。漠然とした問題意識を研究課題へ洗練させてゆき、論文作成までを指導する。

(溝田 友里)行動科学やナッジ、ソーシャルマーケティング等を活用した、健康に関する行動変容(身体活動、食事、禁煙、がん検診受診、特定健診受診、検査受検等)を促すための研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(田中 仁啓)循環器疫学的手法を使用し、疾患リスク・関連因子の解明を目指す研究課題を中心に、論文作成の研究プロセスを指導する。

(八田 太一)混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面にかかわる研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(藤本 修平)ヘルスケア産業におけるマーケティングリサーチ・産学連携システムを用いた社会実装、診療ガイドライン活用・Evidence-practice gap・コミュニケーションに関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐々木八十子)医療や介護等の質の向上のための持続的かつ効果的なコミュニケーション・組織の在り方に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

(佐藤 洋子)観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究課題について、論文作成の研究プロセスを指導する。

※令和8年度に限り、博士課程副指導教員のみ担当可。

<p>評価方法</p>	<p>博士論文の最終審査(口頭試問を含む) 博士論文の審査にあたっては、①社会健康医学における新たな学術的知見の創出に資する研究であること、②研究の方法と論旨展開が適切であり、かつ倫理的にも適切な研究であること、③社会健康医学の発展に寄与する学術的価値、独創性、実現性を備えていることを評価基準とする。</p>
<p>テキスト</p>	<p>—</p>
<p>参考書</p>	<p>—</p>
<p>備考</p>	<p></p>